



巻頭言

専門性を軽視した 30 年に焦りを感じています

筑波大学附属学校教育局教育長補佐・教授

雷坂 浩之

最近、関東地区の視覚障害教育研究会の助言者として招請される機会が2度ほどありました。1度目は寄宿舍部会で、2度目は自立活動部会でした。助言を依頼された理由としては、私が長年視覚特別支援学校の教員だったからとお聞きしました。でも、たいした功績のない私なんかを呼んでもあまり意味はありませんし、本当は引き受け手がいなかったのだと思います。事実、私が視覚特別支援学校で現役の時代は、視覚障害を対象とした自立活動の専任で、全盲の児童生徒の歩行指導やロービジョンケアなどを専業としておりました。そのため、寄宿舍部会で寄宿舍教育を語るの荷が重すぎますし、現場を離れて久しい立場では自立活動の指導に関しても古い知識しか持ち合わせておりませんので、お役に立てることもあまりないと思っておりました。よって、部会の当日まで参加することがとても憂鬱でした。



それぞれの部会には、関東地区のほとんどの視覚特別支援学校の寄宿舍指導員や自立活動を担当する先生方が集まり、前半が事例の報告、後半はそれぞれの学校における指導上の課題とその解決に向けた意見交換という形で進められました。寄宿舍部会におけるテーマは、児童生徒の社会性を高めるための指導や重複障害の指導の在り方で、自立活動部会においては、主に歩行指導の進め方でした。各校からの報告はこれらのテーマに関連した事例でしたが、その後の情報交換において示された各校共通の課題は、それぞれの指導が行える専門家が不足している、乃至は、専門家がないといった悩みに関するものでした。事例報告に対しては、指導の経過や指導法等に関する妥当性やより有効な指導の在り方をコメントすることによって助言者としての役割は何とか果たせたのですが、残念ながら専門家の不足や不在についてはその解決の糸口を提案することができませんでした。というよりも、助言では私が抱いた遺憾の思いを吐露する結果となってしまいました。何故ならば、この専門家の不足や不在の問題は、私が視覚特別支援学校で教職に就いた当時から指摘されていたことで、それから30年近くも経つのに相変わらず論じられていることにある種のショックを受けたからです。

教職員の専門性を向上させて、それを維持・発展させるには、現状の特別支援学校における人事異動のシステムを見直さなければなりません。そのためには、当時から各都道府県の教育委員会に働きかける必要がありました。また、今後においては、各大学における教員養成プログラムに実践的な内容を盛り込んだ改革をしなければなりません。特別支援学校教諭や自立活動教諭の免許を取得することが指導力の向上に直結するシステムを作ることも重要です。

繰り返しとなりますが、こんなことは30年も前から唱えられていたのです。また、この問題は視覚障害の分野だけのことではありません。にもかかわらず、事態が一向に好転していないことに、特別支援教育を軽視する教育行政や現場で教育に携わる教職員の無責任さや怠慢さを感じました。当面の私の役割は、こうした事態を少しでも改善するために努力することなのだと思われ改めて思い知らされました。皆様もご一緒に頑張ってください。

2つの学会において研究を発信しました

特別支援教育連携推進グループ（附属学校社会貢献準備会）では、人間系インクルーシブ教育システム開発リサーチユニット及び附属特別支援 5 校と連携し、研究活動に取り組んでいます。今年度は、これまでの成果から2つの研究を取り上げて発信しました。

国際知的・発達障害学会

8月6日（火）～9日（金）イギリス・グラスゴーエキシビジョン・コンベンションセンターにおいて、特別支援教育に係る本邦の教員研修の歩みについて発表を行いました。平成19年度より特殊教育から特別支援教育へと進んできた我が国においては、これまでにどのような教員研修が行われてきたのかについて、海外の関係者へ発信することができました。

日本特殊教育学会

9月21日（土）～23日（月）広島大学東広島キャンパスにおいて、教材・指導法データベースの運用に係る成果と課題をテーマにシンポジウムを開催しました。シンポジストには杉浦徹先生（国立特別支援教育総合研究所）、田丸秋穂先生（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）、また指定討論者として村松静先生（茨城県県南教育事務所）、左藤敦子先生（筑波大学人間系）を迎え、「特別支援教育教材ポータルサイト」（国立特別支援教育総合研究所）と「筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース」を例に、データベースを活用した教員研修の効果や運用上の課題について、会場の参加者とともに議論を深めることができました。

9.14 第1回特別支援教育研究セミナー【報告】

9月14日（土）、人間系インクルーシブ教育システム開発リサーチユニットとの共催により、第1回特別支援教育研究セミナーを開催し、教員の資質や指導力・実践力を向上させるための現職教員研修の在り方をテーマに、シンポジウム形式で議論を深めました。シンポジストには、林田かおる先生（千葉県立桜が丘特別支援学校長）、佐々木雅則先生（静岡県教育委員会教育主幹）、福元康弘先生（鹿児島県始良市教育委員会指導主事）を迎え、教育現場で求められている研修ニーズや現職教員研修の現状における課題、今後の在り方について、各県の教育的課題を踏まえた特徴的な研修内容やシステム等の工夫をからめながらの報告をいただきました。そのなかでも、学校管理職、並びに、行政に携わる立場の視点から示される研修の成果や課題の実際については、多くの参会者が興味深く耳を傾けていました。



左より
福元先生
佐々木先生
林田先生

筑波大学発「オリンピック・パラリンピック教育」

今年（2020年）開催のオリンピック・パラリンピックという世界的スポーツのイベントをきっかけに、共生社会の実現に向けたスポーツ交流が徐々に盛んになっています。

本学では、以前より人間の尊厳や人類の平和の理念に基づいた「オリンピック・パラリンピック教育」に力を注いでおり、附属学校においても様々な実践が展開されています。SNE-Tでは、各校の取り組みの一端を紹介します。



その3 附属桐が丘特別支援学校の実践

これまで附属桐が丘特別支援学校では、体育・保健体育の学習以外にも、総合的な学習や道徳、行事、給食等様々な場面でオリンピック・パラリンピックに関する学習活動に取り組んできました。今回は、高等部の交流学习と運動会での中学部・高等部の実践をご紹介します。

台湾交流～国立南投特殊教育学校・台中市立啓明学校～

平成28年度より交流締結している台湾の国立南投特殊教育学校と、近隣の台中市立啓明学校の児童生徒が6月17日に本校を初訪問しました。11歳から19歳11名と保護者、教員、通訳、計24名の団を本校高等部生徒が出迎えました。英語の合同授業、昼食や歓迎セレモニーに加え、本校高等部一年生とチームを組みボッチャで交流をしました。台湾からは、自閉症や視覚障害のある児童生徒が来校し、障害の垣根を越えてボッチャを通じた交流を深めることができました。



運動会での取り組み(本校中学部・高等部によるダンス)

9月末に行われた運動会で、本校中学部・高等部（それぞれ2・3年生）の生徒が体育の授業で取り組んだ創作ダンスを発表しました。ダンスのテーマは「2020年 東京から世界へ」。授業のはじめに、「東京といえば?」「日本といえば?」というテーマで個人が思うことを出し合い、自分たちが住む日本の文化や東京の名所、多くの外国人の方も暮らしていることなどについて共有しました。共有したことをもとに3つのグループに分かれ、それぞれの表現方法を互いに認め合い、表現の方法を工夫しながらテーマに迫りました。（寒河江 核）



「日本」、「東京」のイメージについての発表



サビは会場を巻き込む分かりやすい振り付け



フィナーレは「スリー・アギトス」をイメージした振り付け

第2回特別支援教育研究セミナー&書籍刊行【お知らせ】

3月24日(火) 筑波大学東京キャンパスにおいて、人間系インクルーシブ教育システム開発リサーチユニットとの共催により、本年度を締めくくるセミナーを開催します。

日時 令和2年3月24日(火) 13:00~17:00
会場 筑波大学東京キャンパス文京校舎 134教室
内容 講演 慶應義塾大学経済学部教授 中野 泰志 氏
実践交流

テーマ① 自分なりの見方・感じ方を働かせて、身近な自然や様々な事象に触れるための様々な工夫について

テーマ② 自分なりの見方・感じ方を働かせて、教師や友達と音や音楽と触れ合い、楽しむための様々な工夫について

また、筑波大学附属特別支援5校で実際に使用されてきた教材や指導法について取り扱った書籍が、ジアース教育新社より刊行されますので紹介します。掲載教材は、特別支援教育連携推進グループが、附属特別支援5校、人間系障害科学域と協働して構築・運用している「筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース」において一般公開されています。ぜひ一度のぞいてみてください (<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/kdb/index.html>)。なお、本データベースはスマートフォンでもご覧になれます(右のQRコードを読み込んでください)。



附属特別支援学校5校・特別支援教育連携推進グループ・人間系障害科学域の協働による
筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース



附属特別支援学校5校・特別支援教育連携推進グループの催し

- 2月14日(金) 聴覚障害早期教育公開研究会 [附属聴覚:千葉県市川市]
3月24日(火) 第2回特別支援教育研究セミナー [東京キャンパス文京校舎]
5月23日(土)・9月12日(土) 公開講座「特別支援教育における子どもの見立てと教材・指導法の基礎」(予定) [東京キャンパス文京校舎]
8月18日(火) ~ 21日(金) 免許法認定公開講座(予定) [附属中高桐陰会館:東京都文京区]

※公開講座「特別支援教育における子どもの見立てと教材・指導法の基礎」は、特別支援教育経験5年未満の先生方を対象にした講座です。5月は子どもに応じた教材・指導法について協議し、その内容を基に教室で実践を重ねた後、9月にフォローアップの講座を行います。

※免許法認定公開講座は、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、交通機関の混雑や宿泊先の確保が困難となることから、**第3欄(障害児の心理・生理・病理・教育課程・指導法論)のみ実施**します。なお、令和3年度は通常通り、第1欄・第2欄・第3欄の開講を予定しています。

※公開講座は筑波大学ホームページから3月より申し込みができます。

詳しくは (<https://www.tsukuba.ac.jp/education/extension/>) にてご確認ください。

編集後記

令和2年を迎えました。子どもたちと新年の抱負について話し合った先生もたくさんいらっしゃるでしょう。お送りした情報が先生方の毎日の教育活動のヒントになるよう我々も励んで参ります。次号は3月を予定しています。

発行:筑波大学特別支援教育連携推進グループ
(社会貢献準備会)

112-0012 東京都文京区大塚3-29-1
TEL:03-3942-6923 FAX:03-3942-6938
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>
mail:snerc@human.tsukuba.ac.jp